

1. 評価結果概要表

作成日 平成21年3月12日

【評価実施概要】

事業所番号	3290800014		
法人名	社会福祉法人こもれび福祉会		
事業所名	グループホーム こもれびの郷		
所在地	島根県益田市横田町710番地 (電話) 0856-25-2515		
評価機関名	NPOしまね介護ネット		
所在地	松江市白潟本町43番地 松江市民活動センター		
訪問調査日	平成21年2月10日	評価確定日	平成21年3月13日

【情報提供票より】 (平成21年1月29日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成19年4月1日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	9 人
職員数	13 人	常勤 2人, 非常勤 11人, 常勤換算 3人	

(2) 建物概要

建物構造	木造 造り
	平屋建ての1階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	35,000 円	その他の経費(月額)	円	
敷金	200,000円			
保証金の有無 (入居一時金含む)	無	有りの場合 償却の有無	有 / 無	
食材料費	朝食	300 円	昼食	350 円
	夕食	350 円	おやつ	円
	または1日当たり		円	

(4) 利用者の概要 (1月29日現在)

利用者人数	9名	男性	0名	女性	9名
要介護1	3名	要介護2	1名		
要介護3	4名	要介護4	1名		
要介護5	0名	要支援2	0名		
年齢	平均 88歳	最低	80歳	最高	93歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	松本医院、斉藤歯科医院
---------	-------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

認知症の啓発活動や独居の高齢者への声かけなどさまざまな活動を実施し、地域との交流や支え合いを進めている。ホーム内では利用者一人ひとりの想いを尊重し『自然な流れに沿った支援』に努め、介護記録を家族に開示し連絡を密にとるようにして、家族と共に利用者を支える支援に取り組んでいる。又利用者の個別対応を充実させるため、夜勤を2人勤務にしたり、勤務時間を短くするなど、職員のストレスの軽減に努めている。

【重点項目への取組状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況(関連項目:外部4)
	開設2年目の課題として「地域との交流」「家族への連絡」の充実を上げ、地域との積極的な交流や家族への介護記録開示などに取り組み、著しい改善がみられる。
重点項目②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	日頃の介護を振り返るよい機会であると捉え、職員の意見を聞きまとめた。今後の課題を確認し改善に努めている。
重点項目③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	毎回防災、施錠、市との交流などテーマを決めて話し合い、各参加者からさまざまな意見が出されている。茶話会の集まりもこの討議の中で決まった。施錠に関してもさまざまな意見があり参考になっている。
重点項目④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
	まず家族が言いやすい環境をつくることを目指している。そのため家族との連絡を密にする、介護記録を開示する、家族会の意見を聞いて事業計画を立てるなど、家族への配慮や工夫に努めている。
重点項目⑤	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	自治会活動はもとより、こもれび新聞の配布、茶話会の集まり、認知症についての啓発活動、独居高齢者への声かけ、さんさん祭りの開催など、地域交流に積極的に取り組み馴染みの関係を深めている。

2. 評価結果（詳細）

外部 評価	自己 評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期 待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	開設時より地域に根ざした理念を掲げ、利用者の尊厳を守り『自然の流れに沿った笑顔の多く出る支援』に取り組んでいる。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	職員は日々のケアの中で常に理念を念頭においた介護に努めている。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	ホームの行事「さんさん祭り」に地域の方を迎え、認知症についての講演を行なった。保育園児との交流や茶話会は、地域の方に利用者の顔を覚えてもらう機会となり、外出時の見守りにつながっている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	日頃の介護を振り返るよい機会であり、職員の意見を聞きまとめた。1年間の振り返りができ、課題を掘り下げることができた。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	毎回防災、施設、市との交流などのテーマを決めて話し合い、さまざまな意見が出されている。討議の中で月1回の茶話会が実現した。		
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	日常的に問題点を話し合ったり、相談事ができ、助言も得ている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	面会時利用者の最近のエピソードを話している。又、介護記録はラインを引くなど分かりやすく工夫し積極的に開示している。気になる時は随時連絡をしている。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会時や年2回の家族会で、希望や思いを聴き事業計画に反映させている。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	管理者は、職員が働きやすいように、夜勤2人体制にするなど配慮しているので、離職者はあまりない。		


外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	介護研修センターの研修への参加に努めた。全体職員研修として、原点にかえて「認知症とはについて」研修した。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	運営者や管理者はネットワーク会議、グループホーム会議に参加し、職員は職員同士の交流会に参加している。悩みの共有ができ、他の事業所の対応も参考にしている。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気に徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入居前に利用者の生活歴や趣味や好みを把握し、家族の思いを充分理解した上で対応している。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	利用者が昔作っていた料理やおやつ作り、野菜作りを学んだり、職員は利用者の会話をひきだしながら、共に笑ったり楽しんだりしている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	思いや希望の表現が困難な利用者には、生活歴を再確認し対応している。記録はセンター方式を活用し、たくさんの情報を把握している。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	本人、家族の希望をきき、具体的な利用者の願いや想いを第一に考えた介護計画となっている。目標を居室に貼り利用者の力を引き出している。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	毎月モニタリングを行い、利用者の様子や家族の要望に応じて見直しを行っている。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	利用者の早期退院の支援や特別な外出支援、受診支援を行なっている。併設のデイサービス利用者との交流もしている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	協力医がかかりつけ医の場合は、月に1度の往診日に受診している。今までのかかりつけ医の場合は、受診や必要時には往診を受けている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	終末期については、かかりつけ医や職員、家族など関係者と話し合いをするまでに至っていない。	○	終末に対する対応指針を定め、話し合いを行って頂きたい。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報取り扱いをしていない	大きな声での言葉かけに対しては注意をしよう、介護記録を出したままにしないなど配慮している。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ホームの一日の流れはあるが、利用者のペースを守るように努めている。朝食が遅い時もペースに合わせている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	ホールから台所に入りやすく下膳は助け合っている。大きな円形テーブルを囲み職員とともに楽しく食事をしている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴は毎日できる。強く拒否をされる場合は、タイミングを見ながら声かけをするなど試みている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	洗濯物干し、洗濯物たたみ、おしぼり干し、モップで掃除、献立を書く等、自分の好きなことで役割をもてるよう支援している。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	ベランダの花の水やり、庭の中を2～3周散歩する等、日光浴に心がけている。デイサービスに行く、自宅へのドライブ、毎日の食材の買い物などの外出支援をしている。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	日中は玄関のドアを手動にしている。運営推進会議では、施錠についてさまざまな意見がだされた。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	毎月の職員会議で消火器の場所、非常口の確認を行い、年2回の避難、防災訓練の実施など徹底している。地域の方も協力をお願いしている。避難場所が遠いため、駐車場に第1避難所を作っている。		
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食材を地産地消にこだわり美味しい食事に努め、食量・水分量は毎日確認している。栄養士によるカロリーやバランスのチェックもしている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ホールには台所の湯気やにおいが感じられ、飾り付けや花が生活感や季節感を出している。和室も活用され、ゆったりと過ごせる。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	家具や椅子、目覚まし時計など馴染のものや、ホームからの手づくりのプレゼントが置かれている。換気や乾燥対策にも配慮し、心地よい工夫をしている。		

※  は、重点項目。

※ WAMNETに公開する際には、本様式のほか、事業所から提出された自己評価票（様式1）を添付すること。